



公益財団法人 よこはまユース  
経営方針 2021-2023



# 経営方針 2021-2023

---

## 1 前期（2018～2020）をふりかえって

- 青少年を取り巻く社会はどうだったか
- 「中間支援組織」としての役割強化
- 将来的な経営基盤の安定を目指して

## 2 コロナ禍にゆれた1年

- 直接的な体験機会の減少
- 青少年への深刻な影響
- ゆらいだ「つながり」

## 3 社会環境の変化で求められる青少年の「社会参加」

## 4 基本方針策定に向けて

### 基本方針 2021-2023

第3次経営方針（2021～2023）の策定にあたり、私たちは「これまで」を振り返り、「いま」をしっかりと見つめ、「これから」の取組みを考えました。コロナ禍により、誰もが予測できない社会を迎えますが、新しい生活様式に伴う新しい価値観、変化に対応しながら、青少年も大人も未来に希望を持てるまち「よこはま」を目指し、行政や青少年育成団体、地域とともにさらなる事業の充実に取組みます。

\*\*\*\*\*

## 1 前期（2018～2020）をふりかえって

### ■ 青少年を取り巻く社会はどうだったか

少子高齢化の進行をはじめ、ひきこもりの長期化、情報化の進展、若者の「自己肯定感の低さ・自己有用感の低さ」が報告<sup>1</sup>されるなど、青少年を取り巻く環境は厳しい状況が続いています。よこはまユースでは、この間、さくらりピングにおける青少年の居場所づくりや社会参加への取組み、寄り添い型生活支援事業「かもん未来塾」の運営、高校と連携し中退予防を目的とした「ようこそカフェ」などの実施を通じ、青少年育成および困難な状況にある青少年の支援に取り組んでまいりました。

一方、「子ども食堂」をはじめとした困難な状況にある青少年を支える地域の輪が、全国的に広がりを見せた3年でした。横浜市においては、放課後キッズクラブの全校展開や、青少年の地域活動拠点や寄り添い型支援事業の全区展開に向けた整備が始まり、よこはまユースも活動団体のネットワーク形成や相談支援、人材育成支援など、地域での青少年育成・支援活動の充実に向けて取り組みました。

### ■ 「中間支援組織」としての役割強化

2011年に公益法人認定を受けたよこはまユースは、事業やサービスの提供を効率的・弾力的に行うための経営目標となる協約を横浜市と策定し、「協約マネジメントサイクル」により経営向上を図ってきました。

前期3か年は、協約目標の『中間支援組織としての役割強化』に向けて、調査研究や体験プログラムの開発、青少年を支える地域人材や放課後事業スタッフの育成に力を入れ、一定の成果を出すことができました。一方、適切な評価指標の策定や事業の検証・発信は継続した課題となっています。

### ■ 将来的な経営基盤の安定を目指して

人人体制の整備に向けた取り組みでは、将来的な体制安定に向け、2020年度に正規職員2人の採用を行いました。めまぐるしく変化する時代に対応できる職員の養成（研修）が今期の課題となっています。

また、2018年度には新たな財源獲得のためのしくみづくりとして、「ようこそカフェ」の運営資金を集めるためクラウドファンディングに挑戦し、目標金額を達成することができました。毎年減少傾向にある賛助会員や寄附金等、自主財源確保のための工夫や新たなしくみづくりは継続した課題となっています。

---

<sup>1</sup> 「子ども・若者白書（内閣府、2019）」の特集1では、諸外国の若者と比較した自己肯定感・自己有用感の低さが報告された。

## 2 コロナ禍にゆれた1年

### ■ 直接的な体験機会の減少

コロナ禍は、人々の交流機会の制限や働き方をはじめとしたさまざまな価値観の変容など、社会に大きな変化をもたらしました。青少年の生活も大きく影響を受け、休校や授業形態の変化だけでなく学校行事の縮小や中止、ボランティア等課外活動の制限など、体験や経験を通じた心身の成長機会や体験共有の機会が奪われました。

### ■ 青少年への深刻な影響

経済的に困窮する世帯が増加し家庭環境が不安定になったことで、DVや児童虐待の対応件数<sup>2</sup>、青少年の自殺者数が増加<sup>3</sup>するなど、深刻な状況に置かれている青少年が増えています。

### ■ ゆらいだ「つながり」

感染症拡大防止のために、青少年も大人も安心して過ごせる場や相談先が閉鎖を余儀なくされたほか、気軽な活動や交流も制限されたことで、個人や家族単位での孤立が進み、地域をはじめとしたさまざまな関係性がゆらぎつつあることは喫緊の課題となっています。

よこはまユースの取組みにおいても、2020年春の緊急事態宣言時には運営施設が臨時休館となり、多くの体験活動や講座・研修等の事業が中止や延期となったほか、放課後キッズクラブにおいても多くの体験事業が中止を余儀なくされました。このような中、オンラインを使った青少年の居場所づくりや研修の実施、動画の配信など、私たちも青少年や地域の活動者たちとつながりを継続できるよう、新しい事業のあり方・手法を模索しました。

## 3 社会環境の変化で求められる青少年の「社会参加」

超高齢化や情報化の進展を迎える地域社会においては、さまざまな課題解決を推進する「新たな担い手」として青少年の活躍が一層期待されています。さらに、2022年4月からは成人年齢が18歳に引き下げられます。私たちは、青少年が社会で活躍できる環境の充実に努めていくことが求められる一方で、青少年を取り巻く環境の変化に応じ、成人としての権利や義務についての啓発や教育活動の充実、高校卒業以降の若者が自立に向かう「移行期」を支える仕組みづくりに取り組んでいくことが求められています。

## 4 基本方針策定に向けて

前期の振り返りや現状・課題の分析や、2017年度調査報告「体験活動や社会参加活動が“生き抜く力”を育む」であらわしたとおり、よこはまユースはこれまで「青少年が“直接”体験（経験）すること」「“直接”人と関わること」を大切に考え、青少年を育んできました。また、青少年に関わる団体支援においても、直接地域に足を運び、ともに課題に向き合う「顔の見える関係づくり」を大切にしてきました。コロナ禍により、これまでの「あたり前」が変化しても、青少年や大人それぞれが地域や社会とのつながりの中でいきいきと活躍する社会となることを目指し、第3次中期経営方針では「あらためて、『つながり』を大切にします」をテーマに、新たな方策に取り組みます。

<sup>2</sup> 2020年警察庁の犯罪情勢統計（暫定値）によると、DV相談と、虐待の疑いで警察が児童相談所に通告した子どもの数とともに過去最多となった。

<sup>3</sup> 文部科学省の発表によると2020年に自殺した小中高生は過去最多の479人にのぼった。

# 基本方針 2021-2023

## テーマ

あらためて、「つながり」を大切にします。

## 重点的に 取り組む 課題

新たな社会的課題を踏まえ、よこはまユースは次の課題に主眼を置き方策を展開します。

- 1 青少年の育ちに不可欠な多様な体験機会や場の減少
- 2 地域で青少年を見守り・支える関係性のゆらぎ、孤立化の進行
- 3 法改正及び青少年を取り巻く社会環境の変化
- 4 法人の経営基盤の安定と役割・使命の明確化

## 3年間の 目標

- 1 新しい生活様式に対応した「体験」の機会を地域とともに作ります。
- 2 青少年や地域、団体等がさまざまなかたちでの「つながり」を回復・創出・深化します。
- 3 「新たな担い手」として青少年が活躍できる環境をつくとともに、青少年と大人が「共に社会参加できる」機会を創出します。
- 4 青少年施設等の継続受託とともに、中間支援組織としての一層の役割を果たします。

## 目標達成の ための 基本的な視点

すべての青少年に届くような  
きめ細やかなアプローチ  
SDGs(持続可能な開発目標)を  
意識した取組み

青少年に関わる  
喫緊の課題への柔軟な対応

「第2期横浜市子ども・子育て支援事業  
計画」等、横浜市施策の推進

## 目標達成のための主な取組み

上記の目標を達成するために、基本的な視点を踏まえ、以下のことに取り組みます。

### 青少年の体験活動の推進

- ◆ 「つながり」や地域資源を活用した青少年の体験機会の拡充
- ◆ 青少年の拠りどころとなる「場」「人」の充実
- ◆ 新たな手法の開発
- ◆ 放課後の児童・生徒の支援

### 青少年活動への支援(ネットワークの推進・強化)

- ◆ 地域資源との連携、ネットワークの推進・強化
- ◆ 活動コーディネーター

### 青少年を支える人材の育成

- ◆ 「地域・社会全体で青少年を見守り育む」大切さの普及
- ◆ 青少年の育ちに向き合うことのできる、青少年支援の担い手の育成
- ◆ 社会の変化、新たなニーズに対応できる人材の養成

### 法人の目標達成の ために必要な取組

- ◆ 事業の検証・発信の強化
- ◆ 多様な実践の積み重ね・検証のため、青少年施設等の受託継続、拡充
- ◆ 公益使命を果たすために必要な知識、実践力、対応力のある法人職員の育成
- ◆ 計画的な職員の新規雇用